

画像処理システム

アルゴルカ
開発・製造



高速・高精度検査を実現

現場ニーズに総合的に対応

量産品の全品検査は、欠陥品ゼロへの確実性と同時に高速化が求められる。アルゴル（今井博光社長・上伊那郡南箕輪村）では、自均一な製品照射が可能となり、処理能力は一段と向上及びシステムの開発製造を通じ、このような量産現場のニーズに総合的に応えている。

アルゴルの画像処理装置・システムは主に製造ラインの検査工程に組み込まれる。特殊カメラで撮影した画像情報を、規格に適合しているか処理装置が認識判別する。

紙コップ内面検査装置（右）とプレス部品高速寸法検査装置（左）

プレス部品の高速度寸法検査装置は、部品各部の寸法測定を高速で行うもので、毎分3000個の検査処理能力を持つ。紙コップ内面検査装置は、コップ内面の異物や汚れを検出する装置で、毎分1000個の処理能力。製品を照らすリング型LED照明の自社開発に成功したことで、柔らかで均一な製品照射が可能となり、処理能力は一段と向上した。

「現場の事情に合わせた検査システムの要請が寄せられます。精度、速度など技術的に難しい検査ニーズが増えています」と今井社長は話す。アルゴルでは画像処理装置及びそのソフト、画像入力ボード、製品照射用照明機器の単体販売と共動した「長野・上田地域に、各メーカーの現場ニーズに総合的に対応した検査計測システムの開発設計も行い、

今井社長は12年ほど前まで、県内大手精密機器メーカーが、新たな飛躍の糧に